

反復を崩す

指導教員 吉松秀樹教授 印

3BEB3120 丸山 紗季

1. 空間の反復

構造となる柱や壁に囲われた空間が反復し、構成されている建物がよくある。建築に不可欠な反復がどんな影響を与えるか興味を持った (Fig. 1, Fig. 2)。



(Fig. 1) 組積造のメスキータ
(Fig. 2) RC 造の図書館

2. 反復が生み出す予測できる空間

反復する空間は同じ構法でつくるため施工が効率的で、工費を抑えられる。空間が反復することで初めて訪れた人でも先の空間を予測でき、感覚的に空間が把握できるため利用しやすい空間である (Fig. 3, Fig. 4, Fig. 5)。



(Fig. 3) 空間の予測 (Fig. 4) 目的地に行ける (Fig. 5) 他の階の予測ができる

3. 図書館の居心地の悪さ

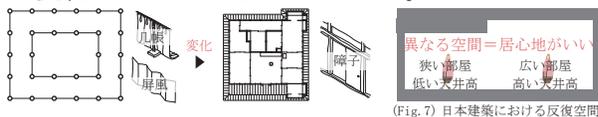
図書館は立って本を選ぶ動的な場所と座って本を読む静的な場所が同じ空間にある。天井高も変化がない。そのため、居心地がいい場所とは言えない (Fig. 6)。



(Fig. 6) 図書館における反復空間

4. 日本建築における反復の崩れ

初期の寝殿造りは反復した1つの空間だった。徐々に空間が障子で用途ごとに分節され、天井高も部屋の広さで変化し反復が崩れている。人はある程度狭い空間を居心地が良いと感じるため変化したのではないかと (Fig. 7)。

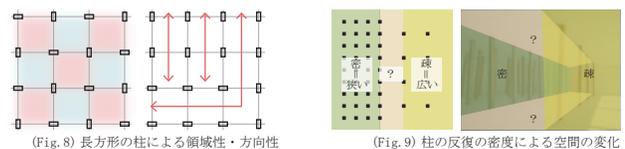


(Fig. 7) 日本建築における反復空間

5. 反復を崩す

5-1 柱による崩し

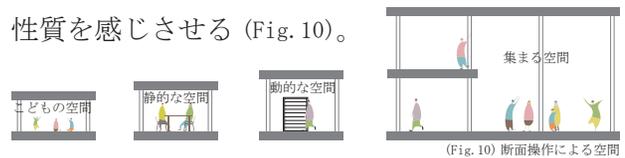
長方形の柱を振り、領域性や方向性を与える (Fig. 8)。密度を変え、空間の認識を変える (Fig. 9)。



(Fig. 8) 長方形の柱による領域性・方向性 (Fig. 9) 柱の反復の密度による空間の変化

5-2 断面操作による崩し

天井高を変え、用途に応じた空間をつくる。柱のプロポーションも変わることにより空間の性質を感じさせる (Fig. 10)。



(Fig. 10) 断面操作による空間

これらの操作を行い反復の持つ利用しやすさと居心地の良さを持った空間を提案する。

